

## 公衆衛生学

担当教員 徳永 淳也

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

環境や経済的要因、社会階層等が個人の健康影響要因として再考されており、医療が対象としてきた患者としてではなく、生活者である人の健康問題を社会という文脈で考える視点と態度を養うことが肝要である。本科目では、社会環境の中で、個人としてだけでなく集団として人の健康を捉えることの意義と方法を、具体的な公衆衛生活動の各展開場面において紹介し考察する。多様な健康観を社会的視点から捉え思考する態度の重要性を認識し、人の健康への公衆衛生学的接近に関する手法と考え方を理解できることを目指す。

### 【授業の展開計画】

1. 公衆衛生学総論：公衆衛生学的接近とは何か
2. 環境と人間：環境保健概論
3. 環境保健を捉える諸相とは何か
4. 環境保健の評価と管理の理解
5. 保健統計概論：測定指標と現状の理解
6. 疫学概論：疫学の歴史的理解と研究デザインを理解
7. 感染症：疾病予防と健康管理
8. 地域保健と保健行政の概観
9. 保健医療の制度と法規：医療従事者における社会的、制度的環境の理解
10. 母子保健に関する取り組みの歴史的変遷および現状と課題の理解
11. 学校保健：子どもの健康状況を把握し学校保健の構成領域とその役割の理解
12. 産業保健：労働者の多様かつ特異的な健康問題の理解
13. 老人保健・福祉：高齢化の現状を理解し施策内容を関連づけて説明できる
14. 精神保健：精神保健における歴史的取り組みを理解し精神保健福祉活動を理解する
15. 国際保健：健康問題のグローバル化とその組織的対応策を理解する

### 【履修上の注意事項】

各講義では確認レポートを毎時間課すので欠席しないように努めること。講義で取り扱う事象や健康問題は複雑であり、暗記だけでは公衆衛生学の面白みを経験できない。健康問題に対する人や社会の考え方、歴史的変遷における論点を整理・理解することが大切である。日頃から健康問題とその解決法について社会という枠組みから接近する習慣を身につけること。

### 【評価方法】

各講義で行う確認レポートにより100%評価する。

### 【テキスト】

シンプル衛生公衆衛生学2017 鈴木庄亮監修、小山洋、辻一郎編集、南江堂

### 【参考文献】

最新歯科衛生士教本 保健生態学 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版  
新歯科衛生士教本 衛生学・公衆衛生学 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

## 環境衛生学

担当教員 星野 輝彦

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

環境因子と人（および生物）の相互関係を理解し、生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準
3	環境化学：生態系と物質動態
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨
5	化学的因子と健康：有害化学物質（重金属、農薬、工業薬品）の影響
6	化学的因子と健康：外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の影響
7	生物的因子と健康：病原微生物の影響
8	物理的因子と健康：放射線の影響
9	物理的因子と健康：温熱、圧力、騒音などの影響
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒
13	生活環境と健康：室内の汚染物質
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント

## 【履修上の注意事項】

講義予定の課題を調べること。受講後、復習しておくこと。  
出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の感想を書くこと。

## 【評価方法】

試験90%、レポート10%

## 【テキスト】

各講義の際に資料を配布する。

## 【参考文献】

「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）  
「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版）

## 解剖生理学 I

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

人体各部の巨視的な構造（肉眼解剖学）に重点を置いて勉強できるようになる。たとえば心臓はある構造をしていて、機能的には血液を送り出す役割を理解できるようになる。構造と機能は密接に関連していて本来は切り離せないが、本講義では特に構造を理解できるようになる。

## 【授業の展開計画】

- 1、解剖学の基礎について説明できる
- 2、上肢の骨格筋と骨格について説明できる
- 3、下肢の骨格筋と骨格について説明できる
- 4、脳頭蓋の特徴について説明できる
- 5、心臓について説明できる
- 6、動脈の特徴について説明できる
- 7、静脈系の特徴について説明できる
- 8、リンパ管の特徴について説明できる
- 9、神経の特徴について説明できる
- 10、脳の神経構造について説明できる
- 11、脳神経の特徴について説明できる
- 12、中枢神経系の特徴について説明できる
- 13、脊髄神経の特徴について説明できる
- 14、末梢神経系の特徴について説明できる
- 15、骨格筋に分布する神経について説明できる

## 【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。  
復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。  
授業後オリジナル出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。

## 【評価方法】

小テスト（60%）、自主的学習態度（10%）、課題レポート（30%）による総合評価

## 【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

## 【参考文献】

解剖学アトラス 越智淳三（文光堂）

## 解剖生理学Ⅱ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

生き物が生きていく仕組み(生理学)を原子、分子、細胞、組織、器官および個体レベルで学習します。教科書に準拠して講義を進めるので、十分に教科書を読んで下さい。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して、他人に解説できるようになること。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	生体の化学構成——生体と水	二科
2	体液とその区分	二科
3	細胞の構造——核、細胞内小器官、細胞膜	二科
4	血液成分とその役割	二科
5	生体防御の機構	二科
6	栄養の消化と吸収——栄養素の種類とその役割	二科
7	栄養の消化と吸収——口腔、咽頭、食道の構造と機能	二科
8	栄養の消化と吸収——胃、腸の構造と機能	二科
9	膵臓、肝臓の構造と機能	二科
10	呼吸の仕組み	二科
11	呼吸の仕組み	二科
12	血液と体液の循環	二科
13	腎臓と体液の調節	二科
14	神経系と内分泌系の役割	二科
15	感覚系の構造と機能	二科

## 【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

## 【評価方法】

期末試験(100%)により判定する。

## 【テキスト】

解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

## 【参考文献】

なし。

## 生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

○食物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。

なお、医療専門職として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食事指導を効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食と環境)
2	食生活の課題(食習慣と栄養・スポーツと栄養 栄養状態の評価と方法)
3	日本人の食事摂取基準(栄養素別基準・食品群別摂取量・摂取エネルギーの算定・活動代謝)
4	栄養指導・保健指導(栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは)
5	栄養素の機能と代謝(1)炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝(2)脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝(3)ビタミン・無機質の機能と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収(食欲・消化の調節・栄養素の吸収)
9	ライフステージと栄養(妊娠・授乳期期・乳幼児期・)
10	ライフステージと栄養(学童期・思春期)
11	ライフステージと栄養(成人期・老年期)
12	病態時の栄養(1)栄養障害・疾患別食事指導の実際
13	病態時の栄養(2)疾患別食事指導の実際
14	病態時の栄養(3)疾患別食事指導の実際
15	病態時の栄養(4)疾患別食事指導の実際(経管栄養と中心静脈栄養・NST)

## 【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること。

## 【評価方法】

筆記試験85% 課題レポート10% 学習態度5%

## 【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

## 【参考文献】

わかりやすい栄養学(三共出版) 基礎栄養学(第一出版) 日本人の食事摂取基準(2015年版) 七訂補日本食品成分表 国民衛生の動向29年度 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表 応用栄養学(医歯薬出版)

## 病態生理学 I

担当教員 掃本 誠治、樋口 マキエ、大河原 進

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成立の基礎を身につける。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	病理学入門、代謝障害（1）細胞傷害と変性・壊死	（大河原）
2	循環障害（1）局所性の循環障害	（大河原）
3	循環障害（2）全身性の循環障害	（大河原）
4	腫瘍（1）腫瘍の定義と分類、発生原因	（大河原）
5	腫瘍（2）腫瘍の発生病理、転移と進行度	（大河原）
6	腫瘍（3）腫瘍の診断	（大河原）
7	腫瘍（4）腫瘍の治療	（大河原）
8	腫瘍（5）腫瘍の診断と治療（化学療法）	（樋口）
9	代謝障害（2）脂質代謝、タンパク質代謝、糖質代謝、その他	（掃本）
10	感染症	（掃本）
11	老化と死	（掃本）
12	炎症と免疫（1）炎症、免疫	（掃本）
13	炎症と免疫（2）アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	（掃本）
14	先天異常（1）先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患	（掃本）
15	先天異常（2）染色体異常、胎児の障害、診断	（掃本）

## 【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

## 【評価方法】

筆記試験で評価する。筆記試験60点以上を合格とする。

## 【テキスト】

（系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [1]「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

## 【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

## 感染症学

担当教員 樋口 マキエ、齋田 和孝、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働きについて、② 病気の原因となる微生物（病原微生物）の分類と特性（構造、性質、病原性）について、③ 感染の成立と生体防御機構、代表的感染症の起原菌と臨床症状、特殊な患者における感染症について、④ 医療における感染予防とその方法について学ぶ。⑤ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。

### 【授業の展開計画】

#### 【 授業内容 】

#### 【 授業担当者 】 【 授業日程 】

(H29) 9:10-10:40

- |   |                    |               |
|---|--------------------|---------------|
| 1) 感染症学概論、自然免疫と常在正常細菌叢の働                      | (三森)               | 4/07 (金)      |
| 2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構）                | (三森)               | 4/14 (金)      |
| 3) 細菌と感染(特徴)                                  | (三森)               | 4/21 (金)      |
| 4) 真菌と感染、原虫と感染                                | (三森)               | 5/12 (金)      |
| 5) 病原微生物の分類と特性：ウイルスと感染、寄生虫                    | (三森)               | 5/19 (金)      |
| 6) 感染症の診断における臨床検査（小テスト）                       | (三森)               | 5/26 (金)      |
| 7) 感染に対する生体防御機構、ワクチン接種                        | (齋田)               | 6/2 (金)       |
| 8) 感染経路と感染症の症状（臨床像）、医療関連感染とその制御               | (齋田)               | 6/9 (金)       |
| 9) 特殊な患者における感染症（新生児、妊婦、高齢者、がん患者）<br>新興・再興感染症、 | (齋田)               | 6/16 (金)      |
| 10) 医療現場における感染防止対策（感染管理認定看護師:熊大附病 非常勤講師）      |                    | 6/23 (金)      |
| 11) 殺菌薬、化学療法について                              | (樋口)               | 6/30 (金)      |
| 12) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本                        | (樋口)               | 7/07 (金)      |
| 13) 抗菌薬（抗生物質）                                 | (樋口)               | 7/14 (金)      |
| 14) 抗菌薬（合成抗菌薬）、抗結核薬、抗真菌薬                      | (樋口)               | 7/21 (金)      |
| 15) 抗原虫薬、抗ウイルス薬、                              | (樋口)               | 7/28 (金)      |
| 16) 単位修得試験                                    | 9:10-10:40 (90min) | (樋口) 8/04 (金) |

### 【履修上の注意事項】

- 1) 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 3) 教科書①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(4/07～8/04)を精読し自己学習する。  
②「コメディカルのための薬理学 第2版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-(4/07～8/04)
- 4) 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

### 【評価方法】

- 1) 学期末の筆記試験（100%）は、授業時間に比例した配点で評価する。  
講義1～6(40点)、7～9(20点)、10～15(40点)
- 2) 授授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。

### 【テキスト】

- 1) わかる身につく病原体・感染・免疫(藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円)、3) 教員作成プリント
- 2) コメディカルのための薬理学 第2版(渡辺、樋口/編、朝倉書店 3,900円)-薬理学、病態生理学Iでも使用-

### 【参考文献】

- 1) 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 2) 看護の基礎固め： 6. 微生物学編、4. 薬理学編(メデイカルレビュー社 各1,600円)

## 薬理学

担当教員 福泉 忠興

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

薬理学は疾病の治療、予防、診断における合理的な薬物療法を追求する学問である。薬物は疾病の原因除去や、症状緩和を目的に使用されるが、副作用を誘引しない薬物はない。すなわち、薬物の有用な作用だけでなく副作用も認識したうえで、薬物を選択し投与しなければならない。そのためには全身的な疾患に対する幅広い薬物の知識を修得できることが大切である。この講義では、薬理学の基礎的な概念を総論を通じて学習し、各論において個々の薬物の薬理作用を理解することを到達目的とする。

### 【授業の展開計画】

1. 総論（薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用に影響を与える因子、薬物の投与と薬物動態）
2. 総論（薬物の連用、薬物の併用、薬物の有害反応）
3. 総論（医薬品、剤型、処方箋と調剤）
4. 中枢神経系に作用する薬物（中枢性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬）
5. 中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、睡眠剤、抗不安薬）
6. 末梢神経系に作用する薬物（局所麻酔薬）
7. 末梢神経系に作用する薬物（自律神経系に作用する薬物、神経・筋接合部に作用する薬物）
8. 呼吸・循環器に作用する薬物（強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、抗高血圧薬、気管支喘息治療薬、鎮咳薬および去痰薬）
9. 血液と薬（出血と止血、止血薬、血液凝固阻止薬）
10. 抗炎症薬（炎症の経過、炎症とケミカルメディエーター、ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤）
11. ビタミン・ホルモン（脂溶性・水溶性ビタミン、脳下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、脾臓ホルモン）
12. 病原微生物に作用する薬物（各種消毒薬の分類と作用機序、抗生物質分類と副作用、抗生物質の作用機序による分類）
13. 抗悪性腫瘍治療薬（アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗癌抗生物質、ホルモン剤、植物アルカロイド、免疫療法薬）
14. 免疫と薬（免疫増強薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、ワクチン）
15. 服薬指導（コンプライアンス、患者に伝えるべき基本事項、服用時間、薬物相互作用、小児への服薬指導、妊産婦への服薬指導、高齢者への服薬指導、障害者への服薬指導）

### 【履修上の注意事項】

講義内容が難しいため、復習は必須である。

### 【評価方法】

期末試験（筆記試験）（100%）による評価

### 【テキスト】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学  
全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版株式会社）

### 【参考文献】

知っておきたい歯科衛生士のためのくすりの知識（デンタルダイヤモンド社）



## 精神保健 I

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ・精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。
- ・精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健の概要
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題
3	社会構造の変化と新しい健康観
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）
6	ストレスと精神の健康
7	生活習慣と精神の健康
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害
9	アルコール関連問題と精神保健
10	うつ病と自殺防止対策
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）
12	精神の健康に関する心的態度
13	精神保健に関する予防の概念と対象
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携
15	精神保健に関する専門職種

## 【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

## 【評価方法】

- 1 試験による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

## 【テキスト】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健学（第6版）』へるす出版，2017年

## 【参考文献】

各講義ごとに主要文献を紹介する

## 健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

児童生徒の心の健康問題が深刻化し、学校の保健室でも心身両面の対応が養護教諭によって行われていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」についての理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べることができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関連する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法(演習含む)
8	健康相談での心理的理解
9	健康相談における連携
10	諸問題の捉え方と関わり方
11	諸問題への具体的な対応について（事例研究の目的）
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ① 疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ② 生活上での課題等様々な課題事例
14	保健室登校と不登校の捉え方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

## 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。  
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

## 【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

## 【テキスト】

養護教諭の行う健康相談 東山書房

## 【参考文献】

## 学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達、健康そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から、保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌について説明できる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学校保健概論・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・児童生徒の発育発達の現状と課題
6	学校保健の対象・健康の基礎理論
7	学校保健の対象・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・保健管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・保健管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・保健管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・保健管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・保健管理：感染症予防
13	学校保健活動・保健管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習、保健指導、学習指導要領
15	保健教育：性教育、薬物乱用防止教育、食育

### 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について事前学習しておく。また、授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

### 【評価方法】

筆記試験90%、レポート10%により評価する

### 【テキスト】

学校保健ハンドブック 第5次改定 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい  
冊子「学校保健」松本敬子編、

### 【参考文献】

学校保健実務必携 第一法規

## 救急処置法

担当教員 古賀 由紀子、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ①生命にかかわる緊急を要するような重大事故時に処置に対する、正しい判断ができる。
- ②学校現場での事故を予測し正しい知識と技術を身につけ児童生徒に対して応急処置ができる。
- ③心肺蘇生法ができる。
- ④救急処置対応計画を作成することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/救急処置の基本的知識（古賀）
2	学校救急処置について/学校における救急体制（古賀）
3	外傷時の救急処置（傷の種類とその処置）（古賀）
4	外傷時の救急処置（頭部外傷、眼部外傷）（古賀）
5	外傷時の救急処置（歯・口腔の外傷、熱傷等）（古賀）
6	外傷時の救急処置（骨折、捻挫、脱臼、打撲等）（古賀）
7	外傷時の救急処置（R I C E 処置・止血・テーピング）（井手）
8	内科的疾患の救急処置（発熱、けいれん、頭痛）（古賀）
9	内科的疾患の救急処置（喘息、呼吸困難等の対応）（古賀）
10	内科的疾患の救急処置（腹痛、下痢等の対応）（古賀）
11	内科的疾患の救急処置（めまい等その他の対応）（古賀）
12	緊急時の救命処置（C P R 理論）（古賀）
13	緊急時の救命処置（A E D 理論）（古賀）
14	緊急時の救命処置（C P R 実技1）（古賀）
15	緊急時の救命処置（C P R 実技2）（古賀）

## 【履修上の注意事項】

実習に際しては適した服装で受講すること。課題を与えるので、各自調べておく。調べたことを授業の中で順次発表する。  
授業で扱った内容について自分で復習をしておく。次の時間に確認の小テストを実施する。

## 【評価方法】

小テスト30%, 定期試験70%として評価する

## 【テキスト】

- ・ 初心者のためのフィジカルアセスメント—救急保健管理と保健指導—永田利三郎 監修 東山書房
- ・ 赤十字救急法教本 ・ 赤十字基礎講習教本（講習時に販売）

## 【参考文献】

## 口腔保健指導論

担当教員 松尾 文

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

人が健康を保持・増進していくには、その人自身が目標をもって努力をしなければならない。歯科衛生士は、人々が健康生活を送るために努力することを、あるいは努力するように、口腔保健領域における健康づくりを中心課題として支援する。本講義では、その支援を目的に行う健康教育”の方法論を理解し、また、地域保健における口腔保健活動（健康教育展開）のあり方について考察する。

### 【授業の展開計画】

- 1・2講 1. 口腔の健康を保持・増進することの意義を理解し、その支援者・歯科衛生士を考える（藤原）  
 3～5講 2. 行動の変容についての学習モデル・理論を理解する  
 1) 自己効力感の考え方を理解する（+健康信念モデル）（近藤）  
 2) ソーシャル・サポートの考え方を理解する（+ストレス・コーピング）（松尾）  
 3) プリシード・プロシードモデルの考え方を理解する（藤原）  
 6講 3. 地域保健計画において地域診断がもつ意味を理解する（藤原）  
 7～11講 4. 各ライフステージにおける口腔保健課題に対する支援を考察する  
 1) 乳幼児期における口腔保健の課題（近藤）  
 2) 妊産婦期における口腔保健の課題（近藤）  
 3) 学齢期における口腔保健の課題（藤原）  
 4) 青年期（15～29歳とする）における口腔保健の課題（松尾）  
 5) 成人期における口腔保健の課題（松尾）  
 6) 老年期における口腔保健の課題（前原）  
 7) 生産年齢期（産業歯科保健）の問題（藤原）  
 12講 5. 文科省が育成を目指す「生きる力」について理解する（藤原）  
 13講 6. テーマの洗い出し方法として、ブレインストーミングおよびKJ法を理解する（藤原）  
 14講 7. ノーマライゼーションへの具体的活動として地域リハビリテーションを理解する（藤原）  
 15・16講 8. 保健・医療・福祉によるヒューマンケア組織としての活動について理解する（藤原）  
 17・18講 2. 地域口腔保健計画立案の基本的考えを理解する（淀川）  
 19講 3. 1) 人びとの健康づくりのための口腔保健計画における評価の目的と意義を理解する（藤原）  
 20講 2) 国際保健支援における口腔保健プログラム立案をプライマリヘルスケアと関連付ける  
 21・22講 4. 熊本県保健医療計画における歯科保健医療計画を理解する（熊本県歯科衛生士）  
 23・24講 5. 保健政策にかかわる健康格差という課題を認識する（藤原）  
 25～27講 6. 住民参加・住民主体の保健福祉活動の意義を理解する（藤原）  
 28～30講 7. 被災地における口腔保健対策について概要を理解し、歯科衛生士の役割を考察する（藤原）

### 【履修上の注意事項】

- ・質問を歓迎します。覚えるのではなく、考える力を養ってください。
- ・そのために、シラバスを確認して関連する既習内容を予習確認して受講すること。
- ・内容を発展させたり積み重ねる形で講義が進行するので、要点を復習しておくこと。
- ・試験は目標を中心に出题します。

### 【評価方法】

評価は試験：60%、出講カード・レポート：40%

### 【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 保健生態学、医歯薬出版

### 【参考文献】

松本千明：健康行動理論、医歯薬出版、健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開、保健同人社  
 神馬征峰ら訳：ヘルスプロモーション、医学書院、近藤克則：健康格差社会、医学書院 ほか

## 食生活指導

担当教員 石川 裕子

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

歯科衛生士として食生活指導を行うために、栄養学・生化学の基礎知識と技能を総合的に習得する。  
①食生活を分析し指導内容を立案することができる②病態と食生活指導について説明することができる

### 【授業の展開計画】

- 1-2 食生活指導とは
- 3-4 現代の食生活の問題、ダイエットについて
- 5-6 基礎知識の復習（五大栄養素）
- 7-8 基礎知識の復習（消化・吸収・代謝）
- 9-10 食生活分析法（バランスガイド・パソコンを使用して分析）
- 11-12 食生活分析した内容を使用して指導内容を立案する
- 13-14 ライフステージと栄養、乳幼児と栄養、食育、おやつ指導
- 15-16 おいしさと食形態
- 17-18 味覚と栄養
- 19-20 病態と食生活指導
- 21-22 NSTについて
- 23-24 歯科における保健指導のなかでの食生活指導
- 25-26 禁煙支援、摂食支援
- 27-28 食生活指導の立案
- 29-30 栄養と歯科に関する論文、まとめ

### 【履修上の注意事項】

1年次に学習した生化学、解剖生理学Ⅱ、生活栄養学の内容（消化・吸収・代謝など）を復習してください。授業中に配布する資料・プリントはファイルし、教科書と一緒に持参してください。

### 【評価方法】

期末試験70%、レポート30%

### 【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝，医歯薬出版  
全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論，医歯薬出版

### 【参考文献】

中村美知子ら編：わかりやすい栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際，ニューヴェルヒロカワ  
香川芳子監修：五訂 食品成分表，女子栄養大学出版

## 看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。

### 【授業の展開計画】

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
3	国民の健康状態（上妻）
4	看護の対象の理解（上妻）
5	災害時における看護（上妻）
6	国際化と看護、グループワーク：国際化と医療職者（古江）
7	サービスとしての看護、看護サービス提供の場（古堅）
8	医療安全と医療の質保証（古江）
9	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護の提供のしくみ：看護をめぐる制度と政策（柴田）
14	小テスト2、看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

### 【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

### 【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

### 【テキスト】

系統看護学講座 基礎看護学（1）、茂野香おる 他（医学書院）

### 【参考文献】

随時、紹介する。

## 養護概説

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務内容と方法論で実証し、学校経営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能するかを把握し説明できる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	養護の概念
2	養護教諭制度と歴史
3	養護教諭の専門性
4	養護教諭の活動拠点保健室—その役割と機能
5	養護教諭の活動拠点保健室—保健室経営計画
6	養護活動の過程
7	養護教諭の実践—1 健康実態・健康問題の把握（健康観察、保健調査）
8	養護教諭の実践—2 健康実態・健康問題の把握（健康診断）
9	養護教諭の実践—3 支援の方法（救急処置活動）
10	養護教諭の実践—4 支援の方法（健康相談）
11	養護教諭の実践—5 養護活動の展開
12	養護教諭の実践—6 環境整備（感染症予防、学校環境衛生）
13	養護教諭の実践—7 健康教育活動（保健指導、保健学習、保健便り）
14	養護教諭の実践—8 組織活動
15	養護教諭と研究、養護教諭の倫理

### 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業に向けた課題を出すので、それについて調べておくこと。  
各回の授業では振り返りを行い、それを授業後にまとめること。

### 【評価方法】

レポート15%、筆記試験85%として評価

### 【テキスト】

- ・養護学概論 編者 岡田加奈子、河田史宝 東山書房
- ・新訂版 学校保健実務必携 学校保健・安全実務研究会 第一法規

### 【参考文献】

冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房



## 看護学各論

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

さまざまな疾患や症状の理解を深め、それぞれにおける看護の視点や方法について学習することを目的とする。また、養護教諭の職務の一領域である学校看護に必要な看護学を学ぶ。学校看護は、児童・生徒の生命を守り、健康の維持・増進を図ることを目的とし、また重要な教育活動である意義を理解する。心身のメカニズム、疾病・異常など、臨床看護実習にも必要な知識・技術を習得するとともに、これらを学校看護の教育としての独自性の中にかすことを学ぶ。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	看護の基礎と看護行為の基本、疾病の経過や治療処置に伴う看護の理解を深める
2	循環器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
3	呼吸器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
4	消化器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
5	造血器系疾患、内分泌疾患・代謝系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
6	泌尿器・生殖器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
7	運動器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
8	脳神経系疾患、精神系疾患の発生机序とその看護を理解する
9	感覚器系疾患に関する病態とその看護を理解する
10	救命救急看護を理解する
11	発熱・腹痛・頭痛・嘔気嘔吐・呼吸困難・けいれんなどの症状別看護を理解する
12	小児看護と母性看護を理解する
13	思春期看護、障害のある方への看護を理解する
14	老年、精神看護を理解する（在宅を含む）
15	ターミナルケアからグリーフケアまでの重要性を理解する

## 【履修上の注意事項】

事前学習として、それぞれの単元で扱う項目に関する事柄を、テキストから拾い上げておき、講義に臨むこと。  
事後学習では、講義終了後にノートをまとめなおし、関連する疾患や状態像と合わせて理解を深めること。

## 【評価方法】

課題の提出等 20%  
筆記試験（小テスト含む） 80%

## 【テキスト】

養護教諭のための看護学 改訂版 藤井寿美子他 大修館書店

## 【参考文献】

## 基礎看護技術

担当教員 吉岡 久美、柴田 恵子、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

1. 児童・生徒が健康に生活をするための援助法のひとつとして、基礎看護技術を学ぶ。
2. 看護の基礎技術を学習し習得することで、援助過程での活用の意義を理解する。

### 【授業の展開計画】

第1回講義時に担当者等の詳細を説明する  
本強化は講義と演習で学習をすすめるため、項目が前後することもあり得る

週	授 業 の 内 容
1	病床環境調整の必要性とその方法について学習し実践する。
2	生命の兆候を観察する技術を知り、バイタルサインの示す意味と測定方法を習得する。
3	安全を守る技術を習得し、安楽な体位を理解して移動等の支援の実践方法を習得する。
4	運動と休息が身体に及ぼす影響を理解し、体位とバイタルサイン、運動の援助方法を習得する。
5	栄養管理を含めた食事の重要性を理解し、形態、摂取方法について理解する。
6	排泄の意義・目的を理解し、その管理方法と援助について実践する。
7	身体の清潔の目的を理解して、衣服管理・交換方法を含めた援助を実践する。
8	身体の清潔の目的を理解して、身体保清の具体的方法を習得する。
9	身体状況に応じた褥法の適応を理解して実践し、安楽かつ快適さを確保する技術を習得する。
10	検査・治療を安全かつ正確に行う技術を理解し、対象者の理解と看護の役割を知る。
11	感染の危険性を再確認し、その具体的予防としての管理方法、清潔操作、創傷管理等を実践する。
12	与薬についての知識を深め、薬剤の管理と投与方法を理解する。
13	安楽な呼吸のための吸引、吸入の目的と種類を理解し、手技と管理方法を習得する。
14	救急救命処置の技術を理解し、緊急時の判断ができる能力を習得する。
15	危篤・終末時の意味を知り、心理・生理的变化を踏まえて死を迎える時の援助を習得する。

### 【履修上の注意事項】

- ・演習は動きやすい服装（ジャージ等）と靴を準備すること
- ・準備物等は掲示板にて連絡するため、確認しておくこと
- ・講義および演習の構成上、展開計画の流れが変更となることがあるが、事前に掲示するため注意し、十分に事前学習をしてレポート作成すること
- ・事後学習では、関連する疾病や状態像と合わせて理解を深め、課題に取り組むこと。

### 【評価方法】

筆記試験 70%      学習への取り組み, 課題の提出 30%

### 【テキスト】

基礎看護技術（メディカ出版）

### 【参考文献】

養護教諭講座3 新版 基礎看護学（東山書房）

## 臨床看護実習

担当教員 吉岡 久美、古賀 由紀子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

看護学・基礎看護技術で学習した知識・技術を基に病院臨床の場でさらに観察し、またこれを実際に行ってみることにより、看護の理解を深める。  
学校保健活動および養護教諭の職務、養護実習との関連を考え、臨床看護実習の意義を理解する。

### 【授業の展開計画】

1. 病院施設、機構、環境、設備を理解する。  
病院における検査機器、医薬品の取り扱い
2. 疾病理解とその対応  
様々な疾病について知り、それぞれの疾病に応じた対応を理解する
3. 対象を理解し、適切なコミュニケーションをはかる  
患者理解とその対応、医療従事者への連絡・報告
4. 看護業務を観察し、可能なことを実施してみる（指導者監督下）
  - ①観察と測定  
情報収集  
バイタルサインのチェック
  - ②環境設備  
施設、環境、設備の理解と整備  
ベットメイキング
  - ③日常生活の援助  
体位変換、病衣・シーツ交換、全身清拭、洗髪、入浴等介助、口腔の清潔、食事介助、  
経管栄養摂取、排泄介助
  - ④処置  
診察介助、与薬、咽頭前吸引、導尿、包帯法
  - ⑤清潔操作  
滅菌器具及び物品の取り扱い

### 【履修上の注意事項】

実習事前指導の受講をすること  
実習前には、事前指導及び看護学各論・基礎看護技術を復習しておくこと。  
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

### 【評価方法】

実習成績(90%)  
実習出席状況、実習態度、看護実習レポート 看護カンファレンスへの参画、学内実習態度（発表内容等）(10%)

### 【テキスト】

実習要項、実習資料

### 【参考文献】

『基礎看護技術』 メディカ出版 等